


「源氏物語」サンクトペテルブルク公演（2026年3月、アレクサンドリンスキー劇場 小ホール）

# 年次報告書

源流から
半世紀

ANNUAL REPORT 2025

令和7年度（2025年8月～2026年7月）

認定NPO法人
TOKYO NOVYI・ART

## ごあいさつ

# 私たちの「源流」から半世紀

私たちの源流は、1976年11月、吉沢京夫が芸術への高い理念を掲げ、若者たちとスタニスラフスキー・システムの探求を始めた「吉沢演劇塾」にあります。演劇塾はのちに劇団京となり、1999年に吉沢が亡くなった後も、門下生がその志を受け継ぎました。

2000年からは、ウラジオストク室内ドラマ劇場の芸術監督だったレオニード・アニシモフが、日本で本格的なマスタークラスを開きます。その教え子たちが創った2つの劇団（劇団P.A.T、スタジオ・ソンツェ）と劇団京が合流し、2004年、アニシモフを芸術監督に迎えて「東京ノーヴイ・レパートリーシアター」としての活動が始まりました。私たちはこのときを「創立」としています。

法人としては、劇団京が2003年にNPO法人となり、2009年に「東京ノーヴイ・レパートリーシアター」、2021年に現在の「TOKYO NOVYI・ART」へと名前を改めてきました。

名前と形を変えながらも、私たちはスタニスラフスキーの美学と理念を礎に、俳優を育て、舞台を創り続けてきました。2026年、私たちは「源流」となった吉沢演劇塾の始まりから半世紀を迎えました。これまで歩みを支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

令和7年度は、能楽堂と下北沢アトリエで4作品を上演したほか、モスクワ国立音楽院の招聘によりロシアの2都市で公演を行い、延べ1,400名を超える観客を迎えました。国際情勢が厳しいなかでも、芸術を通じて「人と人がつながれること」を、あらためて学んだ一年でした。

劇団の活動は、観客の皆さま、支援者の皆さま、共に舞台をつくる仲間に支えられています。次の半世紀、そして百年の歴史を目指して、これからも一つひとつの舞台を大切に積み重ねてまいります。

理事長　岡﨑 弘司

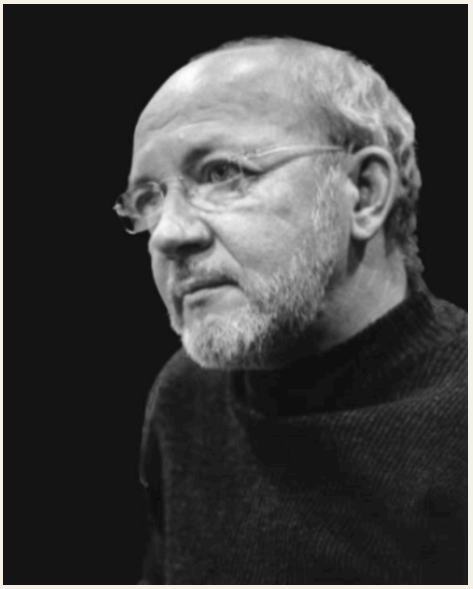
## 私たちについて

TOKYO NOVYI・ARTは、下北沢に稽古場を構える劇団です。ロシア功労芸術家レオニード・アニシモフの演出のもと、スタニスラフスキー・システムに基づく俳優術で、日本と世界の古典を舞台にしています。

| | | |
|---|---|---|
| 一 | **公演事業** | 古典作品の魅力を伝える舞台を上演 |
| 二 | **人材育成** | 東京インターナショナル・スタニスラフスキー・アカデミーの運営 |
| 三 | **情報発信** | 演劇芸術の対談会、海外向け映像配信 |
| 四 | **国際文化交流** | ロシアをはじめ海外での公演 |
| 五 | **地域文化支援** | 地元・下北沢での交流 |

## 芸術監督メッセージ

# 演劇の力



21世紀、劇場は教会の役割をするだろうと予言した人がいます。情報とめまぐるしく変化する社会の流れの中、置いてきぼりにされている「心」を調整してくれる場所がそこだからというのです。

確かに、日々の忙しい生活の中で、いま自分がどう感じているのか静かに耳をすます機会はありません。

劇場は、作家が書いた演劇空間の中で生きる俳優を目撃する場。真実の行われている演劇では、観客は俳優が見、聴き、感じていることを想像することができます。それは混沌とした日常の中では感じることができない、自分の中で眠っている「感情」を解き放つきっかけを与えてくれます。

演劇を通じて心を調整し、より良いエネルギーを生み出す場、それが劇場だと私たちは思っています。チェーホフも言っています。「真実だけが人を治療でき、癒すことができる」と。

芸術監督　**レオニード・アニシモフ**

### レオニード・アニシモフ　Leonid Anisimov

演出家／ロシア功労芸術家／芸術学教授
認定NPO法人 TOKYO NOVYI・ART 芸術監督（旧称：東京ノーヴイ・レパートリーシアター）／東京インターナショナル・スタニスラフスキー・アカデミー校長／全ロシア・ピョートル大帝科学芸術アカデミー会員

モスクワのシチューキン演劇大学演出科を卒業。ウラジオストク室内ドラマ劇場の芸術監督を務め、1993年、モスクワ芸術座での「どん底で」の演出により、ロシア功労芸術家の称号を受ける。同年、日本に招かれ「夢、クレムリンであなたと」（木山事務所）を共同演出し、文化庁芸術祭優秀賞を受賞。2005年、米国ワシントン大学（シアトル）演劇学部に招かれ「桜の園」を演出。

ニューヨークなどでも、ハリウッドやブロードウェイの俳優・演出家を対象にスタニスラフスキー・システムの講義を重ねる。2000年から日本でマスタークラスの指導を始め、2004年からTOKYO NOVYI・ARTの芸術監督として、日本で初めてロシア式レパートリーシステムによる上演活動を続けている。舞台の上で「本当に生きる」俳優の育成と、作品の創造に力を注いでいる。

## 数字で見る令和7年度

# 一年で、2,000人を超える観客へ

**589名**
国内公演3演目の来場者
（能楽堂・下北沢アトリエ）

**1,417名**
ロシア2都市・6公演の観客
（会場席数からの推定）

**61名**
スタニスラフスキー・アカデミー
第13期の受講者（延べ）

**22年**
2004年の創立から
（源流の吉沢演劇塾から半世紀）

## 1年の歩み

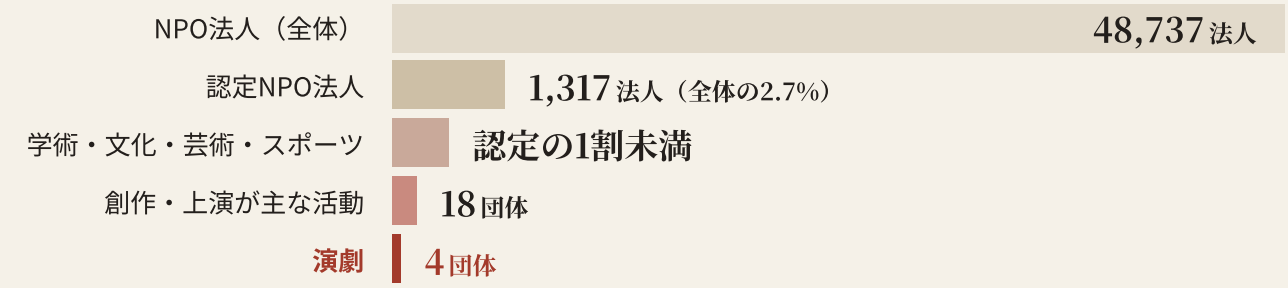
- **2025年10月**　アカデミー第13期 開講
- **2025年12月**　「古事記」「源氏物語」能楽堂連続公演／下北沢クリスマス会
- **2026年1月**　第1回「貴人変人クラブ」
- **2026年2月**　「A.P.チェーホフ小喜劇」下北沢アトリエ公演
- **2026年3〜4月**　ロシア公演（サンクトペテルブルク・モスクワ）
- **2026年5月**　「星の王子さま」能楽堂公演
  モスクワ国際音楽フェスで「古事記」一人語り
- **2026年6月**　イヴァナ・チャバック＆アニシモフ対談会
- **2026年7月**　アカデミー卒業公演「桜の園（全幕）」

## 私たちの独自性

# 「価値創造型」NPOという、もう一つの道

全国には、およそ4万9千のNPO法人があります。そのうち、公益性の審査を経て「認定NPO法人」となっているのは1,317法人。全体のわずか2.7%です。

その認定NPO法人の中で、学術・文化・芸術・スポーツを主な活動とする団体は、1割に届きません。さらに、自ら作品を創り、舞台に上げることを主な活動とする団体となると、私たちを含めて全国で18団体。演劇に限れば、わずか4団体です。この少なさは、作品を創り続ける団体を運営することの難しさを物語っているのかもしれません。




TOKYO NOVYI・ARTは、この4団体のひとつです。（帯の長さは目安で、数に正確には比例していません）

寄付を通じた社会貢献は、大きく三つに分けて語られることがあります。目の前の課題を解決する「課題解決型」、災害などに応える「緊急支援型」、そして文化や芸術のように新しい価値を生み出す「価値創造型」です。

「あなたの1,000円で、子どもたちにワクチンが届きます」というように、成果がはっきり見える「課題解決型」や「緊急支援型」の活動は、多くの共感を集めています。困っている誰かを助けるその活動は、かけがえのないものであり、まさにNPOの代表的な活動です。

一方、私たちの活動は「価値創造型」にあたります。誰かの生活を今日すぐに変えるものではありません。舞台を創り、人を育て、作品を通して社会に問いかける。その成果は数字では示しにくく、時間をかけて人の心に積み重なっていくものです。私たちは、まだ目に見えず、手に取ることのできない「未来の価値」を創り続けているのです。

それでも、こうした営みが途絶えれば、社会から確かに何かが失われるでしょう。

**もし、私たちの舞台や、目指している方向に少しでも共感していただけるなら、どうか、その灯を共に守る一人になっていただけますよう、心からお願いいたします。**

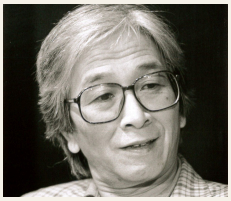
出典：内閣府NPOホームページ（2026年9月30日時点）、内閣府「2023年度 特定非営利活動法人に関する実態調査」、セゾン文化財団「文化芸術活動に対する寄附文化醸成のために」（2021年）。創作・上演団体の数は、各法人の定款の目的をもとに当団体で集計（特例認定を除く）。

写真で見る半世紀の歩み

# 下北沢の稽古場から、能楽堂へ、世界へ

1976年の吉沢演劇塾を源流に、2004年、三つの劇団が合流し、レオニード・アニシモフを芸術監督に迎えて創立。日本では珍しいレパートリーシアターとして歩みを重ねてきました。半世紀の舞台を、写真でたどります。

## 1976–2003　源流、スタニスラフスキー・システム探求の時代



創設者 吉沢京夫



1983年、初来日したG.トフストノーゴフ氏（左）と



「どん底で」の出演者たち（2003年）

1976　吉沢京夫がスタニスラフスキー・システムを探求する「吉沢演劇塾」を創設

1978　稽古場兼ホールを下北沢に構える。以後、吉沢京夫の演出で、椎名麟三「生きた心を」「自由の彼方で」、秋元松代「礼服」、真船豊「裸の町」など、日本の近現代作家の作品を軸に上演を重ねる

1983　ソ連・BDTの芸術監督G.トフストノーゴフ氏が初来日時に稽古場を訪問し、研究生を指導

1988　吉沢演劇塾を母体に「劇団京」を結成

1999　吉沢京夫が逝去。門下生がその志を受け継ぐ

2000　シアターXの招きで、アニシモフの2か月間のマスタークラスが開かれる。受講生の中から、劇団P.A.Tとスタジオ・ソンツェが生まれる

2003　劇団京がNPO法人となる。三劇団合同の日露米コラボレーション公演「どん底で」（アニシモフ演出）

## 2004–2015　創立、レパートリーシアターとして

**2004　劇団京・劇団P.A.T・スタジオ・ソンツェが合流して創立。レオニード・アニシモフを芸術監督に迎え、下北沢で「12ヶ月92日のレパートリーシアター」を開始（第1シーズン171公演）**

2005　「曾根崎心中」初演（第2シーズン）

2007　韓国・ロシアで、初の海外公演（「曾根崎心中」「ワーニャおじさん」〔国際コラボレーション〕）

2008　韓国全国演劇祭に正式招聘（「曾根崎心中」「どん底で」）

2013　シアターXで毎月のレパートリー上演（「白痴」「コーカサスの白墨の輪」、2015年まで）

2014　梅若能楽学院会館で「古事記〜天と地といのちの架け橋〜」を上演。能楽堂での公演が始まる（ロシア文化フェスティバル参加）



2007　「どん底で」下北沢アトリエ



2011　「銀河鉄道の夜」下北沢アトリエ



2012　「コーカサスの白墨の輪」シアターX

## 2016–2021 能楽堂の舞台、そして海外へ



2016 「アンティゴネー」能楽堂（2019・2023年に再演）



2016 「メディア」能楽堂



2018 「桜の園」能楽堂



2021 「検察官」能楽堂



2017 「どん底で」渋谷さくらホール



2018 「古事記」ロシア・ノヴゴロド
撮影：A.コチェヴニク（Фото: А. Кочевник）



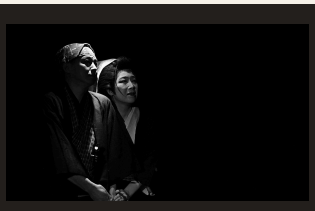
2018 「白痴」ロシア・ノヴゴロド。終演後、感謝状の贈呈を受ける

## 2021–2024 舞台を映像作品に

コロナ禍をきっかけに舞台映像の配信を始めました。終息後も、芸術監督が映像ならではの実験的な表現を追求。この時期に多くの作品を映像作品として残しました。



2021「銀河鉄道の夜」



2021「曾根崎心中」



2022「検察官」



2024「かもめ」

**2026 源流から半世紀**　創立から22年。次の半世紀へ、歩みは続きます。

2025年度 舞台の記録 — 国内公演

# 古典を、いまの舞台に

能楽堂という伝統の空間と、下北沢の小さなアトリエ。二つの場所で、日本と世界の古典を上演しました。



## 「古事記」「源氏物語」能楽堂連続公演

2025年12月6日・7日｜梅若能楽学院会館｜2日間で298名

日本神話と平安文学の最高峰を、二日間にわたり上演。和の発声・音楽・ムーブメントの専門家と協働し、古典の世界を現代の舞台表現として立ち上げました。

> 「声と所作が身体の中に響きわたり、心に染みわたりました。」（60代・男性）



## 「A.P.チェーホフ小喜劇」下北沢アトリエ公演

2026年2月（4公演）｜TOKYO NOVYI・ART アトリエ｜109名

チェーホフの一幕物の喜劇5作品を、劇団員が台本づくりから上演まで担いました。コロナ禍以降、ようやく実現したアトリエ公演です。

> 「プロポーズの話も創立記念祭も、途中で笑っちゃいました。」（観客の声）



## 「星の王子さま」能楽堂公演

2026年5月10日｜梅若能楽学院会館｜182名

パントマイマーの山本光洋氏らを客演に迎え、言葉と身体表現を重ねた舞台に。世代を超えて愛される名作を、能楽堂で上演しました。

> 「『大切なものは目には見えない』というメッセージが、心を解き放つきっかけになりました。」（観客の声）



音楽劇「陰陽師 鉄輪恋愛輪舞曲」モスクワ公演（2026年4月、作曲家の家 ホール）

## 2025年度 舞台の記録 — ロシア公演

# 国境が閉ざされても、舞台は人をつなぐ

2026年春、モスクワ国立音楽院の招聘を受け、サンクトペテルブルクとモスクワで公演を行いました。民間交流が難しい状況のなか、芸術を通じた交流を続ける意義を示す公演となり、両都市のテレビ局でもニュースとして放送されました。

| 日付 | 演目 | 会場 | 観客数 |
|---|---|---|---|
| 3月28日・29日 | 「源氏物語」（2公演） | アレクサンドリンスキー劇場 小ホール（サンクトペテルブルク） | 392名 |
| 3月31日 | 「源氏物語」 | 作曲家の家 ホール（モスクワ） | 225名 |
| 4月2日 | 「古事記」第2幕抜粋 | ザリャージェ・コンサートホール 小ホール（モスクワ） | 354名 |
| 4月5日 | 音楽劇「陰陽師 鉄輪恋愛輪舞曲」 | 作曲家の家 ホール（モスクワ） | 225名 |
| 5月17日 | 「古事記」一人語り | モスクワ国立音楽院 ラフマニノフホール 小ホール | 221名 |
| **合計　6公演** | | | **1,417名** |

観客数は会場席数からの推定です。

### 国際音楽フェスに招かれて

3〜4月の公演が評価され、5月にはモスクワ国立音楽院の第54回国際音楽フェスに招かれ、理事長が「古事記」の一人語りを上演しました。



理事長による「古事記」一人語り



共演した時広氏のパフォーマンス



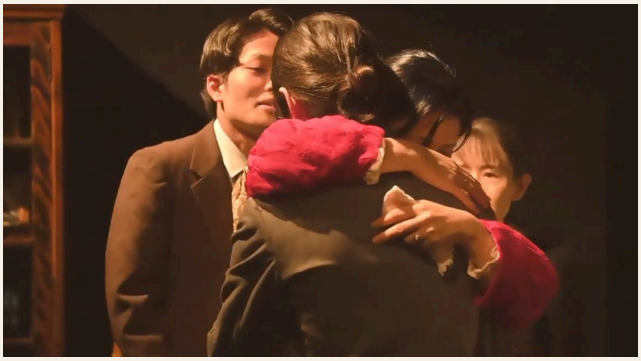
終演後のトーク

## 人を育て、つなぐ

# ロシアの演劇大学と同じ水準で学ぶ、日本で唯一の場

**東京インターナショナル・スタニスラフスキー・アカデミー**

ロシアの演劇学科で3年かけて学ぶ「役作り」の全行程を、10か月に凝縮して修得します。第13期（2025年10月～2026年7月）は、アカデミー生25名、オンライン受講2名、一般ワークショップ参加者延べ34名が学びました。成果はチェーホフ「桜の園（全幕）」の卒業公演（2026年7月、3ステージ）で披露しました。（映像は、スタニスラフスキー・アカデミーのサイトからご覧になれます。）





アカデミー第13期 卒業公演「桜の園（全幕）」

## 対話と交流



### イヴァナ・チャバック＆アニシモフ対談会

2026年6月4日｜日比谷図書文化館｜47名

ハリウッドで活躍する演技トレーナーと、舞台と映像の演技を語り合いました。



### 第1回「貴人変人クラブ」

2026年1月24日｜下北沢アトリエ

各界の第一線で活躍する方々と、「ことだま」をテーマに語り合いました。

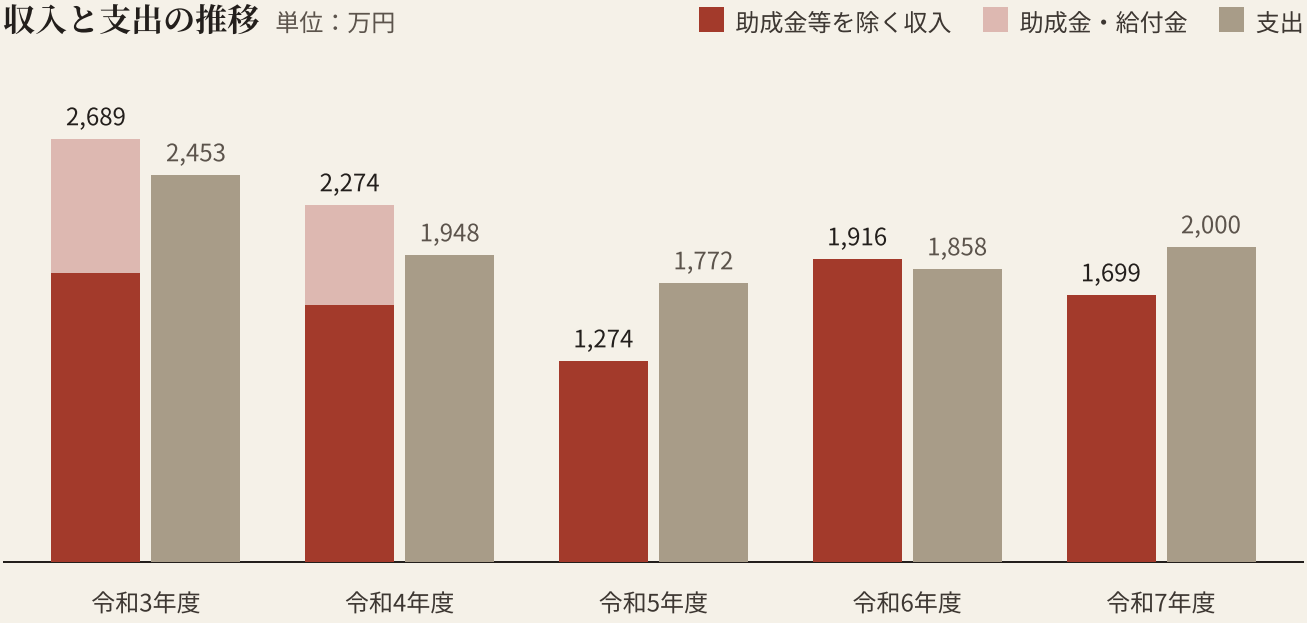
**下北沢クリスマス会**　2025年12月20日｜下北沢アトリエ　支援者の皆さまと劇団の歴史を振り返り、日頃の感謝を伝えました。

活動を支えるお金

# いただいたお金は、舞台と人づくりに

令和5年度以降は助成金を受けず、公演・アカデミーの事業収入と皆さまからのご寄付で活動しています。

## 収入と支出の推移　単位：万円




活動計算書（令和3〜7年度）より。令和3年度の助成金等には給付金178万円を含みます。

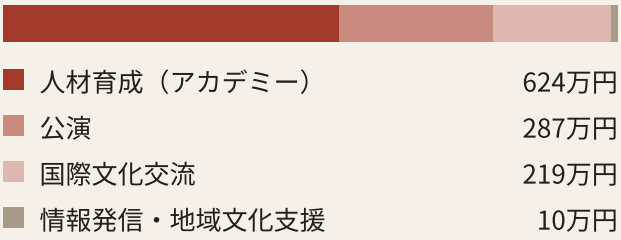
## 事業に使う割合が年々上昇

支出のうち、公演や人材育成などの事業に直接使った割合




## 令和7年度 事業費の内訳

事業費の合計 1,140万円




令和7年度は、ロシア公演など新たな挑戦に取り組んだため、支出が収入を上回りました。舞台を続け、次の世代の俳優を育てるために、マンスリーサポーターとして継続的なご支援をお願いしています。

管理費は稽古場の家賃・光熱費、事務経費など団体の運営にかかる費用で、稽古場の家賃は全額を管理費に計上しています。決算書の全文はホームページで公開しています。

## 支援のお願い

# 次の半世紀も、その先も。
# 受け継がれていく道を、ご一緒に。

下北沢の稽古場は、作品づくりと俳優の育成を支える劇団の心臓部です。その維持のために、皆さまのお力添えをお願いしています。

### 一

**マンスリーサポーター**

毎月定額のご寄付で、稽古場の維持を継続的に支えていただく制度です。

**月500円からお選びいただけます**

コースの詳細は寄付ページをご覧ください。

### 二

**ご寄付**

1回ごとのご寄付も承ります。金額はお気持ちで結構です。

年間3,000円以上のご寄付は、認定NPO法人を続けるための基準（寄付者数）にも数えられ、大きな支えになります。

### 三

**企業・団体の皆さまへ**

公演へのご協賛を承っています。お名前を公演プログラムやホームページに掲載いたします。

**税制優遇**

TOKYO NOVYI・ARTは東京都の認定NPO法人です。ご寄付は寄付金控除等の対象となります。12月31日までのご寄付は、今年分の確定申告でお使いいただけます。

寄付のお申し込み

ホームページ

**寄付のお申し込み方法**

QRコードからお申し込みください。お申し込み後に、振込先などをご案内します。

**今後の公演情報**

最新の公演情報は、ホームページでご案内しています。


認定NPO法人

TOKYO NOVYI・ART

芸術監督 レオニード・アニシモフ｜理事長 岡﨑弘司

源流 1976年（吉沢演劇塾）｜NPO法人設立 2003年｜創立 2004年｜認定NPO法人 2015年

〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-13-6 第1マツヤビル3F

TEL 03-6805-3053

Email　info@tokyo-novyi.com

ホームページ　https://tokyo-novyi.com/

お問い合わせ　https://tokyo-novyi.com/contact/

決算書・事業報告書の全文はホームページで公開